

第 7 回 気候変動に適応した治水対策検討小委員会 議事概要

1. 日 時 平成 20 年 4 月 23 日 (水) 9 : 30 ~ 11 : 30
2. 場 所 合同庁舎 3 号館 1 1 階特別会議室
3. 出席委員 (敬称略)
福岡委員長、池淵、磯部、岸、木本、小池、中北、藤田、藤吉、虫明
4. 議事
(1) 最近の動向について
(2) 答申 素案の審議について

5. 主な発言内容

(1) 最近の動向について

(2) 答申 素案の審議について

はじめに

- ・気候変化と気候の変動性というのは、きちんと使い分けていただきたい。
- ・答申のタイトルも気候変化のほうがいい。

基本的認識

- ・不確実性のある気候変動の適応策に講ずるにあたっては、気候変動による外力の変化の把握と書かれているが、そのトーンが全体にながれていない。気候変動による増分を計画の中に盛り込むにあたり、気候変化の不確実性に対する責任を明示することが非常に大事である。(河川局が責任をどうとるのが弱い)
- ・適応策は国の責務で日本として、資源を巡る対立や環境が引き起こす問題などをどう考えるかについて触れなくてよいのか。
- ・河川環境を適応策によって現状の状態を維持するのは少し問題があるのではないか。むしろ、緩和策のほうを進めて影響をなるべく少なくする方がいいと思う。
- ・対応策を講ずるにあたっての課題の中で、安全保障とサステナビリティのトレードオフとか、そういう大きな課題としてもう少しあり得ないのか。

外力の増大

- ・降水量、降雨量、年降水量、年最大日降水量など用語の整理をしていただきたい。
- ・各レポートに関する記述は、ポツが多すぎて見にくいので、若干項目別に分けて書いて、互いに矛

盾するのではないか確認しておいた方がよい。

- ・気候変化が一方向に、定性的に起こるであろうことは間違いないが、定量的な情報としては不確実性が非常に大きいと思う。Ⅱの外力の増大というあたりに早速そのことを言っておかないと説得力がなくなるのではと思う。
- ・海面上昇対策について、影響を設計に見込むことは可能であるという表現を、見込むことは技術的には可能であるという趣旨の表現に直していただきたい。

適応策の基本的方向

- ・リスクを減らす努力をしており、ほっとおいて何とか切り抜けて生き延びる方法だけを考えようという結論ではないように思われるが、「水害リスクと共存する社会」という言葉に抵抗を感じる。
- ・洪水リスクを高度に意識するコンシャスだと思う。
- ・洪水が氾濫しても壊滅的な被害にならないというので、氾濫を許容しながら洪水と付き合いしていくことだと思う。洪水との共生という言葉のほうが馴染むような気がする。
- ・気候変化と共存する、気候変化に伴う洪水と共生、共存するということだと思う。リスクは減らすものだと思う。リスクと共存というのはかなり踏み込んだ概念で、そこまでは合意できないのではないかなと思う。
- ・重構造にして、施設と流域で治水整備をやるということが洪水とともに生きていくということの1つの現れであると思う。
- ・リスクではおかしい気がする。洪水とか高潮と共存、洪水の可能性というのがいいかなと思う。
- ・洪水との共存は、自分の中ではサステナビリティという言葉の1つの具体的な形か側面みたいイメージがある。サステナビリティの中の水というイメージとしての文言的なのを、前後のまとめみたいなどころにいれてはどうかと思う。
- ・土砂災害に対する危機管理的な、異常現象に伴う土砂災害時の危機管理のようなことについての提言も少し入れていただきたい。
- ・リスクとか安全度とかがどうシフトしていくのか。形の部分は概念的には分かるが、定量化することに努力をしていただきたい。
- ・超過洪水という取り上げ方もやめて、外力として計画に取り込まなくていけないという明確な書き方は、非常に大事だと思う。
- ・重層的という言葉が非常にいい。超過洪水対策とか限定的な形でなく。

- ・河川局が目指すのは、ミチゲーションもやるんだが、低炭素社会と対応するような総合水適合社会とか水災害高度適応社会とか、そういうのをぶち上げておかないと引っ張られてしまうような気がする。

適応策の具体的な提案

- ・外力を決めたらそれだけにもつのではなく、その上の超過外力が来たときに何が起こるかということも考えながらやらなければならない。例えば新規に作る構造物については超過外力についても考慮するなど。
- ・地域づくりの適応策に遊水池、二線堤、輪中堤があるが、流域内の流域対策としての施設整備、例えば道路整備と連携してやるということなどもこの中に位置づける必要がある。
- ・適応策と緩和策をどういふふうにマージしていくのか。個々の施策がそれぞれあるのではなく、一貫して繋がるようなイメージのものを作っていたきたい。もう少しロジックが明確になるようなことを考えていただきたい。
- ・川の環境で風を通して街を涼くなれば炭酸ガスを使わないでいいということが重要で、川を使ってヒートアイランド現象を抑えるのとちょっと違うだろうと思う。
- ・土砂災害の場合、山地域でどのようなことが起こっているのか、下流の地域の人に伝わるようなシステムを作っていたきたい。

総合的な土砂管理の推進

- ・海岸侵食について、2の影響ではずいぶん項目を作って書いてあるが、3の適応策になると項目として抜けている。
- ・砂防事業と一体となって、下流河川での堆砂などの河川災害の問題を考えていこうような姿勢が必要。山地から海岸までの一貫した総合的な土砂管理につながるということということで、その点をもう少し強く入れていただきたい。

適応策の進め方

- ・広い範囲の関係機関の協力がなくてもやっていける話と、関係機関の協力がないとやっていけない話を同列に論じて書いてあるような気がする。関係機関と一緒にやらなきゃいけないと強く感じさせるようにアピールする部分が必要ではないか。
- ・地域づくりというのは非常に大事なことだが、利害関係が非常に絡んできて、その中で合意を形成するという仕組みについて触れるべきではないか。
- ・日本は統合的水資源に関する国際合意、国際的リーダーシップを取ると言うことを明言しており、インテグレートウォーターリソースマネージメントのような国際的にも通じるような枠組みにも触れたほうがよい。

- ・総合水マネジメントは概念としては非常に重要。素案にある全体の要素をくくるものとして、そういうことを入れておくことは必要と思う。

その他

- ・答申を発表される時に、直近の行動計画みたいなものが同時に報道されると、よりインパクトがあるのではないかと思う。
- ・一般の国民と話すときは、洪水と氾濫、水害を分けて、言葉を整理していただきたい。